



園長のへや

熱帯夜・猛暑・酷暑…この夏もたくさん耳にしてきましたね。お盆を過ぎた頃からはずい分過ごしやすい時間も増えたものの、日中はまだ1か月ほど辛抱し、油断せずこの暑さを乗り切る努力が必要かと思います。そのためには、しっかり睡眠をとり朝食を食べて登園していただき、園での水分補給も大切だと思っています。それに関連して、意外とお話したことのない給食室のちょっとした様子やお茶について少し触れてみたいと思います。

給食室では、7時開園に向けて出勤してくる早番の保育士とほぼ同時に先ずは一人の調理師さんが出勤し“回転がま”という大きなお鍋でお茶を沸かすことから一日が始まります。麦茶だと“麦アレルギー”のお子さんが飲めないため、ほうじ茶を濃すぎない状態で使っています。それを各クラスのおやかんに移し、流水で冷まします。その間にお米を研ぎ、離乳食から作り始め、乳児クラスの朝おやつ準備もした上で、全ての給食調理の開始です。そうこうしつつやとお茶が適度に冷めるのは、量が多いため9時頃になります。水筒持参で登園してくれている幼児クラスの子どもたちは朝から園庭で遊ぶことも多く、水筒のお茶が空っぽになった子が「お茶入れてください」とおかわりに来てくれるのもちょうどその頃です。時には「まだ冷ましてるからもうちょっと待ってね」と言うこともありますが、そんな風に子どもたちの水筒のお茶が足りなくなった時には随時補充をしています。たまに、水筒ごと持参し忘れる子がいて、その時は園の貸し出し用水筒にお茶を入れて一日使ってもらっています。話の途中ですが、ここで余談を申しますと、その“園の貸し出し用水筒”というのは、職員や保護者の方からいただいた中古の水筒のことで、案外使用頻度が高いため既にボロボロで、しかも数は少なめです。少々厚かましいのですが、もしもご家庭に子どもたちが扱えそうな不要になった水筒がありましたら、園にいただけると大変助かります。お散歩にも持って行きますし、年間通して貸し出すことが多々あります。…話は脱線しましたが、そうした水筒のお茶は活動の様々なタイミングで飲み、給食やおやつ時には、水筒とは別に給食室からのお茶をコップで飲んでいきます。できるだけそれも残さずに飲み、個人差はありますが皆しっかり水分補給はできているかと思っています。水筒持参のない乳児クラスには、ミニカップとおやかみを常に用意してもらっています。そして給食室では、午後～夕方用のお茶を再び沸かしてくれています。もちろんお茶を飲めば安心というものではありませんが、やはり給食と同じくらい大切だと思います。暑い時期が過ぎても水分補給はずっと続けていくわけで、今回はこうして給食室に様々な面から園を支えてもらっている様子を、皆さんにお伝えする機会とさせていただきました。